# 青少年指導員制度50年
# これまでの軌跡・これからの道程

# 横浜市青少年指導員連絡協議会
# 歴代会長座談会

**出席者**

松本　保夫（第６代会長：平成14年度～17年度）
飯田　正二（第７代会長：平成18年度～19年度）
石井　一也（第８代会長：平成20年度～現在）
宮谷　敦子（こども青少年局青少年部長）
村上　謙介（こども青少年局青少年育成課長）

**宮谷部長**　神奈川県の青少年指導員制度が50周年になるということで、現在、横浜市青少年指導員連絡協議会では記念誌を作成しております。その中で、第６代から現在までの横浜市青少年指導員連絡協議会会長の皆様に、これまでの活動の振り返りや今後の青少年指導員への期待について、お話しいただく機会を設けさせていただくこととなりました。

皆様は市会長としてだけでなく、青少年指導員として長い年月にわたり、経験を積み重ねてきた皆様ですので、色々なエピソードや貴重なご意見をたくさんお持ちであると思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、初めにお一人ずつ簡単に自己紹介をお願いいたします。

〔第８代　石井会長〕

**石井会長**　私が青少年指導員になったのは昭和59年。今年度で34年目になります。市の協議会会長になったのは平成12年で、今年度で５期10年目です。最初は青少年指導員が何たるか分からない中で始めましたが、早いもので30数年経ちました。色々ありましたが、我々の仲間、諸先輩方に出会えたことが私にとっての一番の財産だと思っています。

**飯田会長**　私は青少年指導員を25年やりました。始めた当時、私はサラリーマンでしたが、ちょうど40歳のときに、ある雑誌で「会社勤めだけでは、会社を辞めた後、人との繋がりがなくなってしまう」という記事を読み、地域で何かやりたいと思うようになりました。最初から青少年指導員になろうと思ったわけではなく、たまたま空きが出たということでお受けしました。

当初は何も分かりませんでしたが、やっているうちにどうにかなるだろうと考え、サラリーマンをしながら休みの日には青少年指導員として活動する日々でした。

途中からは保護司も務め、そちらは22年間やりました。青少年指導員としては元気な子どもを育てようという反面、保護司としては崖から落ちてしまった子どもを救おうとする、この二つの異なる仕事をやっていました。今この歳になっても、「おっちゃん、おっちゃん」と子どもたちから声をかけられます。会社勤めだけをしていたら、おそらくこのような子どもたちとの関係も今の私もないだろうと思っています。

**松本会長**　私は26年間やりました。やめてからもう５、６年が経ちます。泉区がまだ戸塚区だった時代に活動を始めましたが、戸塚区から分区（※昭和61年度に戸塚区から栄区と泉区が分区）した後もずっと続けて活動していました。

青少年指導員として初めて委嘱を受けたときは緊張しました。青少年指導員の活動といっても初めは何をすればいいのか分かりませんでした。

お話をいただいたときは私自身が体育好きだったこともあり、体育指導員かと思いましたが、任されたのは青少年指導員でした。最初は「自分には向いていないだろう」と思っていましたが、26年間続けることで自分も色々と勉強になりました。どちらかというと自分は人に迷惑をかけてしまう時代も多かったので、「その恩返しになれば」という思いと、子どもたちと関わることで、少しでも良い子どもたちが育つ役に立てればという思いで活動を続けていました。また、青少年指導員をやることで「自分も悪いことはできないな」という戒めにもなっていたので、長く続けていて良かったと思います。

## 1　青少年指導員を始めたきっかけ

**宮谷部長**　皆様が青少年指導員を始めたきっかけを改めてお教えください。

**飯田会長**　地域活動をしたいと考え、特に民生委員をやりたいと思っていましたが、町会長から「まだ若いということもあるし、青少年指導員をやってほしい」と言われまして、すぐに引き受けました。ただ、どういうものかは知らなかったですし、制度があることも知らなかったくらいで、入ってから活動を覚えました。

当時は今と異なり、子どもたちと触れ合う機会が多くあったと思います。区単位でバス旅行や地引網、芋掘りとかをやっていました。子どもたちと付き合っていく中で、最初は近所の子しか知りませんでしたが、段々と多くの子どもたちと知り合うことができるようになっていきました。

また、松本会長も話していましたが、一番良かったのは、自分のためになったことです。当時、私の娘が「お父さんが青少年指導員をやっているから、私は悪いことできないよ」と言っていて、「そんなの当たり前だよ」と言い返しましたが、そういう意味でもやっていて良かったと思います。

**松本会長**　青少年指導員のお話をいただいたときは、何も分かりませんでした。ただ、色々な人たちと話をしていく過程で「青少年の健全育成のために活動していく人である」ということが分かりました。当時は若かったですし、自分が青少年指導員として活動することで悪さをしなくなるだろうというのも一つのきっかけでした。青少年指導員の活動が長年続けられることで、横浜市の子どもたちにとって、良い環境づくりにつながっていると思います。こうした青少年の健全育成活動を続けることは、すばらしいことだと感じています。

〔第６代　松本会長〕

**石井会長**　青少年指導員になったきっかけということですが、私の場合は地区の自治会長さんからのお誘いです。自分で仕事を始めて10年経っていない頃、ちょうど36歳の頃に青少年指導員を引き受けたのですが、その２年くらい前から何度か家に来て話はいただいていました。そのたびに自分が先頭に立って仕事をやっていたから、とても時間的にお引き受けするのは無理だということで

お断りし続けていたのですが、最後にその方から「僕がこうして君の所に通っているのは、君のことを思って来ているのだよ。」と言われたのが決め手になり、青少年指導員になりました。

〔宮谷青少年部長〕

## 2 青少年指導員活動の変遷

**宮谷部長** 皆様は青少年指導員の活動を長年見てこられています。昔と今とで変わってきたことはありますか。

**石井会長** 私が市の会長をお受けしたこの10年で感じたことですが、まず、社会環境がインターネットを中心に激変したように思います。

昔から家族形態の変化は言われていましたが、今は「向こう三軒両隣の良い関係」といったことはほとんどなく、近隣関係がかえって煩わしいという状況になりつつあります。そうした中で、青少年指導員としての活動も変化する必要がありました。インターネットの急激な発展にともない、まずは自分たちが分からなければ子どもたちに指導ができないということで、そうした時期には盛んにインターネット関係をテーマにした講習会を開催していました。

環境の変化により便利になる一方で、お互いの顔を合わせたコミュニケーションが少なくなり、子どもたちが夜中だろうと何だろうと簡単に繋がるといった良くない面を享受しているような気がしてなりません。これは子どもの心だけでなく、大人の心にも悪影響を及ぼしている気がします。前から言い続けているのは、「デジタルからアナログへこの辺でそろそろ舵を切らないといけない」ということです。私どもの地域では、「ペットボトルロケット大会」がありまして、環境問題などに関連付けて実施しているのですが、何よりも「命の大切さを感じるセンス」を持ってもらいたいと思って実施しています。

私どもの地域では、よりメンタルな面に踏み込んだ活動に今は変わってきている気がします。

**松本会長** 今、石井会長が話していたことは、まさにそのとおりで、私自身もそう感じています。今の時代、子どもたちがインターネット、パソコンで遊ぶのは当たり前です。

我々の時代は地域の子どもたちが集まり、そこでふざけっこしてけんかをしても、結局仲直りして、仲の良い友達ができるような感じでした。でも、インターネットだけの繋がりですと、そういった関係づくりは難しいのではないかと感じています。インターネットで連絡を取り合うことと直接会って話をするのは大きく意味が異なると思います。私は、これからいくら日本が変わったとしても、子どもたちが直接触れ合える場所はなくなってはならないと考えます。直接の触れ合いの中でこそ、子どもたちは育ちます。

海や山にみんなで一緒に行って、お互いに協力し合う経験などを通じて、どういったことが悪いことなのかの線引きを覚えたりするということはインターネットだけでは難しいと思います。

また、親が子どもに理解を示すことも必要です。親が子どもを外に出すようにしていかなければ、これからの子どもたちが本当の意味での友達を作ることは難しくなると思います。

最近は、自分さえ良ければ良いとか、他人の心を考えない人が増えてきたと感じています。

以前の活動を思い返すと、子どもたちが地引網をやってお互いに助け合うことで仲良くなっていたと思います。

こういった考えは古いのかもしれませんが、可能であれば、これからの青少年指導員の活動でも直接の触れ合いを大切にした活動を続けていただきたいと願っています。

これには家庭の協力も必要ですが、「向こう三軒両隣」というのは今の人たちにとって本当に煩わしいだけのものになってしまっていると感じます。「うちのことは放っておいてくれ、うちはうちでやっていくから結構です、お宅には迷惑をかけませんから。」という人が多いです。最近では、時代が変化し、子どもに話しかけることも難しくなったような気がします。

でも、それはそれで現実として受け止めて、行政が中心となって地域の触れ合いの場を大事にする方向に進んでいってほしいです。例えば、同じ内容のチラシが回覧板に入っていたとして、「横浜市」の名前が入っている、入っていないという違いだけでも読み手の感情は変わると思います。そういった工夫もしながら、青少年の健全育成を進めていってほしいです。

〔第７代　飯田会長〕

**飯田会長**　遊びの形が変化するのは時代の流れの中ではやむを得ないことだと思います。むしろ子どもが時代の先端をいくのは当たり前で、その変化に対して、大人がどうついていくかだと思っています。

子どもを地域の行事にどう集めるかではなく、大人がいかにして子どもたちの前に出ていくかが重要です。「何々をやるから学校に来てください」と言って土日に子どもたちを集めようとしても、せっかくの休日に学校に行こうとは思わないはずです。地区センターや地域ケアプラザを使うなど、開催場所を工夫し、かつ子どもたちに自ら関わりに行く姿勢が必要です。

私の地区では、年に３回くらい大きな行事をやっていますが、人が集まらないということはありません。それは普段から子どもたちの前に立ち、色々と話をしている結果だと思っています。

〔鶴見区民まつり竹とんぼ教室〕

現役の青少年指導員を見ますと、まだ仕事をしていて土日しか休みがないという人も多く、難しいと思いますが、ぜひ日曜日に地区センターに行ってみてほしいです。なぜなら、そこには地元の中学生がいて、地域の子どもたちの様子も分かるようになるからです。まずは「地区センターに顔を出すこと」から始めてみてほしいと常々思っています。

これからの青少年の健全育成は、子どもたちが寄ってくるのを待つのではなく、大人から地域の子どもたちの中に入っていく必要があると思います。

あとは、「地域性」をよく考えて活動をしていく必要があります。生麦地区ではうまくできたとしても、別の地区で同じことをやるとうまくいかないこともあります。昔の人が作った地域性は大切にするべきで、無視してしまうと「地域活動」ではなくなってしまいます。「地域性」を後世に伝えていくのも我々大人の役割の一つです。

それから、私は「将来の担い手をどうするか」を常々考えながら地域活動を続けています。私の活動を見て「自分も歳をとったら、あのおっちゃんと同じように地域で活動しよう」と思ってくれる子が千人に一人でもいてくれればいいという想いで活動しています。担い手の発掘を念頭に置いているからこそ、今なお地域活動を続けられていると思います。

**村上課長**　私が住む地域はかつての新興住宅地ですが、今は高齢化が進んでいます。子どもの頃は、地域の運動会も大きなものでしたが、年々、参加者も少なくなってきています。

〔村上青少年育成課長〕

また、かつては、夕方になれば近所に子どもの声が響いていましたが、今は聞かれなくなりました。

昨今、地域での青少年の健全育成活動がしにくくなる中、伺った皆様の思いと活動には感銘を受けました。私自身が少し地域活動に携わった中で感じたのは、子ども同士が繋がると大人同士も、そして地域も繋がっていくということです。

子どもたちをしっかりと育成支援していくことは、改めて、横浜の未来に繋がると感じましたし、皆様がまさにそのことを地域で大事にしてくださっていることを実感し、とても心強く思いました。

## 3　活動体験談

**宮谷部長**　続いて、これまでの活動の中で、これはよかった、苦労した、という思い出についてお聞かせいただけますか。

〔港北区ペットボトルロケット大会〕

**石井会長**　市や県の会長としての思い出は、平成23年度の神奈川県青少年保護育成条例の改正です。改正時に神奈川県から相談を受け、「青少年指導員」を条例の中に盛り込みたいということになりました。その後、調整を進めていき、実際にその名が刻まれた時には重みや責任を感じました。

当時の仲間には「条例に盛り込まれた意味を考え、今一度青少年指導員として自分を律してほしい」と話しました。

あと、印象に残っていることとして、港北区のペットボトルロケット大会は20年ほど続けているのですが、10数年前にある記者の方が取材に来て記事にしてくださいました。

そして、３年程前、その方が新聞に「『宇宙兄弟』という映画を観た時、エンドロールに港北区青少年指導員協議会を見つけました。私が若い頃に取材をした大会が今も続いていることを知って、非常に懐かしく思いました。昔見た鶴見川の河川敷の情景が本当に上手に表現されていました。いつの日か港北区からも、大会に参加した子どもが宇宙飛行士になることを祈っています」というコラムを書いてくださいました。そういった方の心にも大会の意義が伝わっているように感じて嬉しかったです。

また、70年前と今では環境は大きく変わりましたが、我々が本気で子どもたちに向き合えば、その気持ちが子どもにしっかりと通じるのは、今も昔も変わりません。それを感じられるときは本当に嬉しいです。

**飯田会長**　鶴見区では以前竹とんぼをやっていましたが、私が栃木とか相模原まで竹を取りに行っていたこともあって本当に大変でした。一方で、当時のことを思い出すと、青少年指導員をやっていてよかったと思います。今も町会長として子どもたちと色々関わっていますが、そこの根底にあるのは青少年指導員としての経験です。

また、海外で我々と近い活動をしている方の話を伺ったときに驚かされたのが「ボランティア」に対する考え方の違いです。海外ではボランティアの拠点として教会があり、日曜日とかの空いた時間にまったくの無償でやるのが基本だそうです。我々のように、地区でユニフォームを揃えて活動したりするのは、向こうではボランティアと言わないとのことです。

だから、私は地域で子どもたちに何か協力してもらったりする時は「ボランティア」と言わず、「地域活動」という言葉を使うようにしています。

〔泉区ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会〕

**松本会長**　私の印象に残っているのは、私が市の会長をやっているときに「成人のつどい」に青少年指導員が協力をするようになったことです。今もそれが続いていることは本当に嬉しいです。

また、泉区には障がい者団体が50ほどあり、中学校長会で子どもたちと障がい者が触れ合う機会を設けたいという話をしたら、初めは区内の校長全員が反対しました。

そこで、何度も何度も説得を重ね、やっとの思いで実現することになりました。障がいにも色々あるので全員が一緒にできる競技はありませんが、中学生に協力してもらいながら運動会を開催しました。

この運動会は10年以上続いていますが、２年目以降は校長先生から「やろうやろう」と言ってくれるようになりました。今では、中学生、障がい者、青少年指導員が一緒に食事もしたりして、とても良い行事になっています。

私は毎年参加していますが、今では会場に入りきらないくらい多くの参加者が来ています。ここに参加した中学生がどのように成長し、どういう感覚を持った人になってくれるのか、本当に楽しみです。こうした経験をした子が横浜市にいるということは、非常に良いことだと思っています。

## 4　今の青少年指導員、今後を担っていく青少年指導員に贈るメッセージ

**宮谷部長**　今の青少年指導員、これから青少年指導員を担っていく方々に対しての期待やメッセージをいただけますか。

**石井会長**　常々思うのは、青少年指導員として委嘱を受けるのも何かのご縁ということです。そして、「誰もが受けられるものではない」ということを意識してもらいたいです。青少年指導員を引き受けた方にも、色々な事情があると思います。ただ、青少年指導員としての委嘱を受けた２年間は、青少年指導員としての立場を考えながら粋に感じてやってもらいたいです。

**飯田会長**　私は今、青少年指導員を推薦する立場にいますが、「名前だけ貸してくれ」というようなことは止めなくてはいけないと思います。ただ、委嘱されたからには、青少年指導員として誇りを持ってほしいと思います。

そして、１期目の方にはしっかりとした研修の機会を設けてあげてほしいし、１期目の方にはぜひ研修の場に赴き、色々と学んでほしいと思っています。

また、実感として、青少年指導員経験のある町会長さんが非常に多く、その人たちはみんなきちっとしています。つまり、今青少年指導員がやっていることは間違っていないということです。

**松本会長**　青少年指導員を長くやっている人や初めてやる人など、色々な方がいると思いますが、初めての人にはきちんと学ぶ機会を設けてあげてほしいと思います。１人１人が「青少年指導員とは」ということを学ぶためにも、地区のベテランやＯＢの青少年指導員が研修の講師になるのも一つだと思いますし、そうした機会があれば、今後青少年指導員を引き受けてくれる人たちもやりやすくなると思います。

**宮谷部長**　青少年指導員の皆さんは仕事をされている方も多い中で、夜には会議があったり、土日には行事があったりと大変なことをしていただいていると日頃感じていました。今日の座談会は、地域づくりや次世代の担い手育成が皆さんの活動を通じてできていると感じられる時間でした。

**村上課長**　皆様が地域の子どもたちを心の底から想っていることが改めてわかる時間となりました。また、お三方とも人と人との出会い、繋がりを大切にされているということも感じました。

　そして、青少年指導員としての活動が人生をより豊かにし、皆様の魅力につながっていると感じることができる時間でした。皆様の思いをこれからの50年に向けて伝えていかなければならないと感じました。

**宮谷部長**　今日は本当にありがとうございました。

**一　　同**　ありがとうございました。

後方左から　大原担当係長、　第８代石井会長、村上青少年育成課長
前方左から　宮谷青少年部長、第６代松本会長、第７代飯田会長

**【参考】　歴代横浜市青少年指導員連絡協議会会長**

| | 氏名 | 区名 | 期間 |
|---|---|---|---|
| 第１代会長 | 森井　卓次 | 鶴見 | 昭和48年度 |
| 第２代会長 | 原　　進 | 金沢 | 昭和49年度～50年度 |
| 第３代会長 | 肥田　仙太郎 | 南 | 昭和51年度～52年度 |
| 第４代会長 | 柴田　梅吉 | 中 | 昭和53年度～62年度 |
| 第５代会長 | 渡部　近司 | 磯子 | 昭和63年度～平成13年度 |
| 第６代会長 | 松本　保夫 | 泉 | 平成14年度～17年度 |
| 第７代会長 | 飯田　正二 | 鶴見 | 平成18年度～19年度 |
| 第８代会長 | 石井　一也 | 港北 | 平成20年度～29年度 |